

XVZ13A ロイヤルスター

XVZ13A Royal Star

橋本 政幸*

Msayuki Hashimoto

河崎 伸一*

Shinichi Kawasaki

中村 公昭*

Kimiaki Nakamura

小笠原 祐二*

Yuzi Ogasawara

鈴木 貢*

Mitugu Suzuki

1 はじめに

1970年代の初めに、ピークで150万台を記録した米国のモータサイクル市場も、その後減少し、1990年代に入ると30万台のレベルまで落ち込んだ。しかし、最近では1970年代にモータサイクルを経験した人たちが、再びモータサイクルに戻ってくる現象もあり、アメリカン（米国ではクルーザーと呼ばれている）を中心に数量が、反転して増加する傾向となってきた。

このようなアメリカンの伸びは、欧州でも日本でもみられ、世界的に需要が増加している。

しかし、大排気量アメリカンのような高付加価値モデルは、ただ商品を開発すれば良いということではなく、商品の価値を維持するための施策が、大変重要になってくる。今回のロイヤルスターの開発の場合も、開発初期からYMUS内にプロジェクトチームを作り、こういった市場施策を強力に推進してきた。

2 開発の狙い

以下にスタイリング、エンジン、車体の各々の開発の狙いを述べる。

2.1 スタイリング

アメリカンの基本であるロング&ローのデザインを基調としながらも、全体的にはクラシックな雰囲気であとめている。また個々の部品を独立させて、ひとつひとつを美しく、かつ用品の装着性

を十分考慮した、エレメンタリズムの考え方に基づいたデザインとしている。

2.2 エンジン

ロイヤルスターでは、ヤマハの最高級車としてふさわしい、メンテナンスが容易で、信頼性が高いV型4気筒の水冷エンジンを採用した。

エンジンの狙いとしては

- (1) アメリカンらしい中低速での力強いトルク
- (2) V型4気筒らしい高速での伸び
- (3) 迫力のある排気音
- (4) 鼓動を感じるエンジン

においた。

その狙いを実現するため

- ・吸排気系のマッチング
- ・エンジン本体の騒音対策により、排気系の寄与率の向上
- ・エンジン回転数をVMAX 1200に比べて80%以下に抑さえバラランサを廃止した。

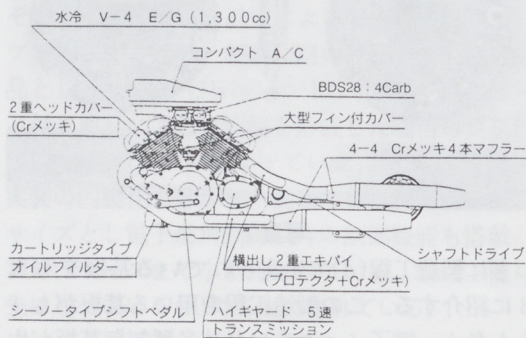


図1 エンジンフィーチャーマップ

一方、エンジンの存在をアピールし、ノスタルジックな空冷エンジン風に見せるために、大型のサイドカバータイプのフィンを採用した。また、エキゾーストパイプは横出しとし、4本マフラとした。

さらには、高級感を醸し出し、自分で手をかけて磨きたくるよう、随所にクロムメッキを採用した。



写真1 ロイヤルスター

*モーターサイクル事業本部 第2プロジェクト開発室

2.3 車体

車体の狙いとしては

- (1) 『ロング&ロー』のスタイリングの実現
- (2) 直進性の確保
- (3) ゆったりとしたライディングポジションの実現
- (4) 市場での用品の装着性の重視

において、

そのために

- ・ホイールベースを極力伸ばす
 - ・タンクオンメータの採用
 - ・タンク、シートの上面を低く押さえる
 - ・前輪分布荷重を高める
 - ・最適なフロント廻りのディメンジョンの設定
 - ・フレーム剛性の確保
 - ・メインシートの快適性と足つき性を重視し、シート座面形状の作り込みとシート先端部の幅を狭くするためのフレーム及び内臓物のレイアウトの実施
 - ・シート、ハンドル、フートレストの相対位置の作り込み
 - ・フートボードの採用
- などの施策を実施した。

フレーム構成は、剛性アップとロースタイリング及び足つき性を両立させるため、大径(外径42.7mm)の鋼管を使用したワイドフレームタイプとし、タンクレール、ダウンチューブ脱着式(各々片側)を採用した。

また、スタイリング、低重心化及びリヤアームの剛性確保上、新規構造のリヤサスペンションを採用した。これはリヤクッションをエンジン下に配置したリンク式のタイプではあるが、リヤホイールが沈み込むとリヤクッションが伸びる、従来とは逆の構造のものである。

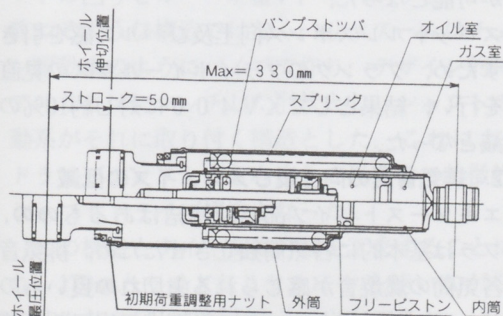


図2 リヤクッション構造図

その他、市場での用品装着性を向上させるためにリヤフェンダ廻りが、リヤフレームと一緒に脱着できる構造とし、交換頻度の高いリヤシートやタンク上面カバーも取り外し時の外観商品性を考慮した取り付け構造とした。

さらには、米国の広い大地を走行する場合、航続距離も重要であり、低燃費の追求と18Lのタンク容量の確保をおこなった。

3 ツアークラシック

本モデルにはクルージング向けの『ベーシック』のほかに、ツーリング機能をより高めた『ツアークラシック』モデルを設定している。

図3に『ツアークラシック』タイプに追加したアイテムを記す。

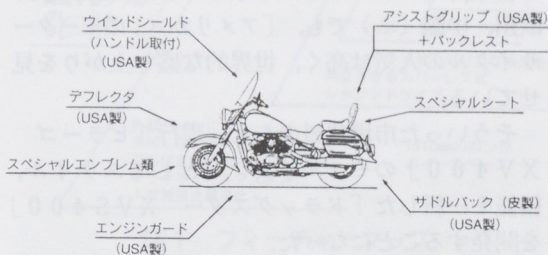


図3 ツアークラシック追加アイテム

これらの部品の内、シート、エンブレム関連以外はYMU Sによる現地(米国)手配とし、今回これらの部品のために新たに米国の外注メーカーの開拓も行った。

各アイテムの狙いとしては、市場での用品装着性及び個性化のしやすさに重点を置き、各々のアイテムが単独で脱着でき、合わせて『ベーシック』モデルへの追加装着性も十分考慮した構造、デザインとしている。

4 おわりに

久しぶりのアメリカンモデルの開発ということで、開発の初期段階では戸惑いがあり、紆余曲折もあったが、最終的には米国市場から『究極のクルーザー』という評価をいただくまでに仕上げる事ができた。今後とも、このスターシリーズを充実させ、長くお客様に愛されるモデルとしていきたいと考えている。